

第 3 章

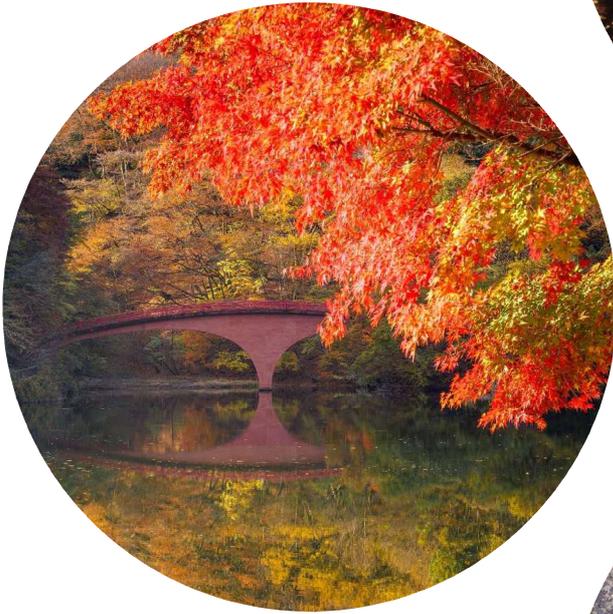
計画が目指す 環境づくりの方向

3-1 計画が目指す望ましい環境像

3-2 SDGsの推進

3-3 環境づくりの方向と基本目標

3-4 環境施策の展開に向けて（環境施策の体系）



3-1 計画が目指す望ましい環境像

望ましい環境像とは、10年後、20年後、市の環境の状況がどのようになっているか、将来のあるべき環境の姿を描く、長期的な視点でとらえた目標となるものです。市民・事業者・行政が将来のあるべき姿を共有し、その実現に向けて主体的に取り組んでいくための環境面の方向性を示しています。

前計画では、本市の特性である河川や森林などの自然、碓氷峠鉄道施設群や中山道の碓氷関所跡などの歴史遺産と人との関わりを踏まえ、市民の英知と協働により、自然と共生した環境への負荷の少ない持続可能な社会を構築している姿として、『里山の恵みと歴史を活かし 環境文化を育むまち あんなか』を環境像として決めました。

本計画の上位計画である第3次安中市総合計画－あんなか まちづくりビジョン2024－では、『**住んで良かった 豊かで魅力ある元気な 新しいあんなか～さらに、光り輝くまちへ～**』をまちづくりの将来像とし、環境政策に係るまちづくりの目標として「**豊かな自然を活かし 快適で住みやすいまち**」と定め、豊かな自然を維持しながら、快適で住みやすい環境整備を図るとともに、人と自然が共生するまちを目指しています。

市では、2050年ゼロカーボンシティと「あんなか5つのゼロ宣言プラスわん」の実現を目指しています。

本計画では「望ましい環境像」を次のように定め、その実現に向けた環境施策を総合的・計画的に進めていきます。

望ましい環境像

豊かな自然を再興し 脱炭素・資源循環をめざすまち あんなか



3-2 SDGsの推進

2015(平成27)年9月の国連サミットにおいて、国際社会全体の2030年までの行動計画とSDGs(持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals)が採択されました。

SDGsは「誰も置き去りにしない」ことを根底に、17のゴール(開発目標)と169のターゲットが設定され、それぞれが相互に関係し、一つの行動で複数の課題を統合的に解決することで、持続可能な社会を目指すものです。

本市においても、SDGsの推進に向けて、現場での実践と学びを循環させる取組や、SDGsの理念に賛同した企業や団体等と協力した取組によって、さまざまな課題解決を進めています。

 <p>1 貧困をなくそう</p>	1. 貧困をなくそう	 <p>2 飢餓をゼロに</p>	2. 飢餓をゼロに
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	3. すべての人に健康と福祉を	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	4. 質の高い教育をみんなに
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	5. ジェンダー平等を実現しよう	 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	6. 安全な水とトイレを世界中に
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	8. 働きがいも経済成長も
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	10. 人や国の不平等をなくそう
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	11. 住み続けられるまちづくりを	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	12. つくる責任 つかう責任
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	13. 気候変動に具体的な対策を	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	14. 海の豊かさを守ろう
 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	15. 陸の豊かさを守ろう	 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	16. 平和と公正をすべての人に
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	17. パートナーシップで目標を達成しよう		

3-3 環境づくりの方向と基本目標

望ましい環境像である“豊かな自然を再興し 脱炭素・資源循環をめざすまち あんなか”は、市民の安全・安心、健康の確保と生活環境の質の向上を基本とし、環境面から次の4つの社会の形成を図っていくことにより実現されます。

なお、これら4つの社会は相互に関連を有しており、相互に作用しあいながら持続可能な社会を形成しています。

脱炭素社会

気候変動の緩和策と適応策により、2050(令和32)年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)を実現するとともに、気候変動の影響を回避・軽減し、市民が安全・安心、健康で脱炭素型の暮らしや活動が楽しめる社会

循環型社会

MOTTAINAIの心が育まれ、循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行が進み、自然資源を大切にし、再生可能資源として循環利用され、ごみとして廃棄されない環境にも家計にもやさしい社会

自然共生社会

生物多様性や自然との共生を大切にする心が育まれ、地域の自然や生物との共生、持続可能な社会づくりに向けた自然再興が図られ、豊かな自然の恵みを楽しみ、育み、活かす社会

協働社会

市民・事業者・行政が、地球や地域環境について知り、考え、協力し、持続可能な社会づくりに向けた環境の保全や創造、まちづくりを進めている社会
また多様な地域の人々との交流が育まれ、それぞれの地域の資源を活用しあう社会

基本目標
1

エネルギーを賢く使う ゼロカーボンシティあんなか

SDGs



2050年温室効果ガス排出量実質ゼロの実現に向け、自然の恵みを活かし、省エネルギーや再生可能エネルギーが賢く活用されている環境にやさしいまち「ゼロカーボンシティあんなか」を目指します。

環境づくりの方向

- ①省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの最大限の活用、温室効果ガス吸収源としての緑資源の活用やコンパクトでスマートなまちづくりを進め、2050年カーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)の実現を目指します。
- ②気候変動リスクの回避・軽減に向け、再生可能エネルギーによる自立分散型エネルギーシステムの構築や気候変動適応策を推進し、自然災害による死者「ゼロ」及び災害時の停電「ゼロ」など、市民の安全・安心、健康の確保に努めます。

基本目標
2

資源を大切にし、循環利用される ごみゼロのまち あんなか

SDGs



3R+Renewable(再生可能資源化)の取組など、資源が循環利用される循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行が進み、食品ロス「ゼロ」やプラスチックごみ「ゼロ」の実現など、資源を大切にする環境にやさしいまちを目指します。

環境づくりの方向

- ①地産地消や3Rの取組を進め、ごみの発生が少ない、環境にやさしいまちづくりを進めます。
- ②プラスチックごみによる環境汚染防止や温室効果ガス排出抑制に向け、再生可能資源の活用による循環利用を推進し、プラスチックごみ「ゼロ」を目指します。
- ③一人ひとりが日常生活や事業活動における食品ロスについて考え、取組を進め、食品ロス「ゼロ」を目指します。

基本目標
3

豊かな自然の恵みを守り育み、資源として活かすまち

SDGs



本市の恵み豊かな里山の自然環境を持続可能なまちづくりの資源として保全・再生・活用を図るとともに、自然環境が生活や社会経済活動に果たしている機能を回復・向上し、自然とのふれあいが楽しい、快適で安全・安心、健康に暮らせる自然と共生する社会の形成を目指します。

環境づくりの方向

- ① 恵み豊かな自然環境・生物多様性の保全・活用に向け、ネイチャーポジティブの取組を推進します。
- ② 自然の浄化機能等の回復向上、日常生活や社会経済活動に伴う環境負荷の低減を進め、快適で安全・安心、健康的な生活環境を確保します。
- ③ 自然や生きものとのふれあいが楽しめる環境づくりを進めます。また、動物愛護に向けた犬・猫の殺処分「ゼロ」を目指します。

基本目標
4

みんなで創る 里山の環境文化

SDGs



地球環境や地域の環境課題を解決していくためには、市民・事業者・行政が協力して環境の保全・創造を図っていく必要があります。そのため、一人ひとりが環境について学び、考え、行動し、協働による環境づくりが進められる社会の形成を目指します。

環境づくりの方向

- ① 地域環境や環境づくりに関する情報を発信するとともに、環境教育・環境学習の充実に努め、環境課題と環境づくりの方向の共有を図ります。
- ② 市民・事業者・行政がパートナーシップのもと、協働による環境保全活動が進められる社会の構築を図ります。

3-4 環境施策の展開に向けて（環境施策の体系）

望ましい環境像の実現に向け、本計画が進めていく環境づくりの方向と基本目標、基本目標ごとの環境の保全等に係る施策の展開方針は次のようになります。

